

---

# 知多半島の 歴史と現在

日本福祉大学知多半島総合研究所

17

---

# CONTENTS

## 目次

### ▶特集 シンポジウム報告

- |     |                             |                         |
|-----|-----------------------------|-------------------------|
| P1  | 渥美窯の展開                      | 田原市立田原中学校 教諭<br>安井 俊則   |
| P13 | 常滑窯の展開                      | とこなめ陶の森資料館 学芸員<br>中野 晴久 |
| P25 | 施釉陶器の生産形態 - 瀬戸窯を中心に -       | 愛知学院大学文学部 教授<br>藤澤 良祐   |
| P37 | 東北地方の渥美と常滑                  | 平泉町役場総務企画課<br>八重樫忠郎     |
| P51 | 都市鎌倉における渥美・常滑焼の使われ方         | 鶴見大学文学部 教授<br>河野真知郎     |
| P65 | 【シンポジウム】中世渥美・常滑焼をおって        |                         |
|     | コーディネーター／                   | パネリスト／                  |
|     | 日本福祉大学知多半島総合研究所 所長<br>福岡 猛志 | 田原市立田原中学校 教諭<br>安井 俊則   |
|     |                             | 平泉町役場総務企画課<br>八重樫忠郎     |
|     |                             | とこなめ陶の森資料館 学芸員<br>中野 晴久 |
|     |                             | 鶴見大学文学部 教授<br>河野真知郎     |
|     |                             | 愛知学院大学文学部 教授<br>藤澤 良祐   |

### ▶コラム

- |     |  |                             |
|-----|--|-----------------------------|
| P85 | 知多地域の地名由来                                  | 日本福祉大学知多半島総合研究所 所長<br>福岡 猛志 |
| P89 | 知多半島5市5町の人口概観                              | 日本福祉大学経済学部 准教授<br>加茂 浩靖     |
| P93 | 知多半島の砂との出会いから「株式会社トウチュウ」                   | 日本福祉大学経済学部 准教授<br>加茂 浩靖     |
| P95 | セキュリティシステムの研究開発で知多半島をリードする企業<br>「加藤電機株式会社」 | 日本福祉大学経済学部 准教授<br>加茂 浩靖     |

---

## ▶地域・産業

P97 訪問介護事業所の競争環境とスイッチングコスト

日本福祉大学経済学部 准教授

遠藤 秀紀

P105 伊勢・三河湾の水産資源と環境

名城大学大学院総合学術研究科 特任教授

鈴木 輝明

## ▶歴史・民俗

P111 18世紀における知多地域の変容と酒造業の展開 -小鈴谷村の場合-

日本福祉大学経済学部 教授、知多半島総合研究所歴史・民俗部 部長

曲田 浩和

P121 知多郡の近世村落の成り立ちに関する一考察 -一色村の場合-

日本福祉大学知多半島総合研究所 教授

高部 淑子

P135 木綿問屋長谷川家と廻船 -明治4年真栄丸芳兵衛船一件の紹介-

日本福祉大学知多半島総合研究所 客員研究員

鈴木えりも

P151 近世知多地方の雨乞い

日本福祉大学子ども発達学部 助教

松下 孜

P209 碧南鋳物の祖 国松十兵衛家終焉の検証  
-辻村鋳物師の本家と出職・出店先に関する一考察を含めて-

碧南市史資料調査員

杉浦 和文

## ▶追悼文

P217 堀内先生を想う

前日本福祉大学学長

加藤 幸雄

P218 「何ぞはるかなる」「何ぞかくかなしき」

-青木美智男さんを悼む-

日本福祉大学知多半島総合研究所 所長

福岡 猛志

P219 2012年度知多半島総合研究所活動報告

---

第25回 日本福祉大学知多半島総合研究所歴史・民俗部研究集会  
シンポジウム「中世渥美・常滑焼をおって」報告

---

日本福祉大学知多半島総合研究所では、1994年7月に「中世常滑焼をおって」を開催いたしました。その後、全国の発掘調査が進み、中世常滑焼研究は大きく進展し、また、中世渥美焼の実態も明らかになってきました。

さらに、2012年3月には『愛知県史 別編 窯業3 中世・近世 常滑系』が刊行されました。そこで、愛知県史の編さん過程で得られた成果をふまえ、多くの中世常滑焼が発見された平泉や鎌倉からの報告を加え、中世渥美・常滑焼の生産・流通・消費をテーマにしたシンポジウムを、下記の通り行いました。その成果を特集として報告いたします。

◇開催日時：2012年11月10日（土）10:00～16:30

◇場所：常滑市民文化会館（ホール）

◇内容：基調報告① 「東海の中世窯」～研究の到達点と課題～

1. 「渥美窯の展開」 安井俊則氏（田原市立田原中学校 教諭）
2. 「常滑窯の展開」 中野晴久氏（とこなめ陶の森資料館 学芸員）
3. 「施釉陶器の生産形態 - 瀬戸窯を中心に -」  
藤澤良祐氏（愛知学院大学文学部 教授）

基調報告② 「消費地からの問題提起」

1. 「東北地方の渥美と常滑」 八重樫忠郎氏（平泉町役場総務企画課）
2. 「都市鎌倉における渥美・常滑焼の使われ方」  
河野眞知郎氏（鶴見大学文学部 教授）

シンポジウム 「中世渥美・常滑焼をおって」

○コーディネーター 福岡猛志（知多半島総合研究所 所長）

○パネリスト 上記報告者5名

◇主催：日本福祉大学知多半島総合研究所

◇共催：常滑市、愛知県県史編さん室

◇後援：常滑市教育委員会、常滑市商工会議所、常滑市観光協会